

米沢興議館高校SSH通信

本校は平成19年3月に山形大学工学部と高大融合協定を締結してから、様々な連携事業を行ってきた。体験型の先端的科学実験講座等が該当する。その後も本校生徒が講師となる子ども向け体験型実験講座における講師指導をしていただいたり、米沢市理科研修センターと連携しながら実際に生涯学習フェスティバルに参加し、モバイルキッズケミラボブースで講師を務めたりと、縦のつながりだけでなく、横の広がりも見られるようになってきた。



慶應義塾大学 富田勝 教授による講義

FS第5回コース別講義・研修「山形から世界のトップへ」
1年男子生徒（米沢一中出身）
世界トップレベルの研究が山形にある。例えば、メタボローム解析だ。これは代謝物質などを一斉に測定し、健康な人と健康でない人を比較することでガンなどの病気を発見することができる。慶應義塾大学 富田勝 教授の話では、この技術が最初出された時は、受け入れてもらえなかったらしい。しかしそれでもあきらめずに研究していたから今のようすばらしい発展を遂げたのだと思う。あきらめない心が成功へと導いて行ったのだと思う。
この心は自分たちがこれから進路を決定する際にも大切になる。自分の目指す進路に手が届かないのではないかと考えても、あきらめずに努力し続け、必ず目指す進路に到達したい。そんな思いを抱かせてもらえる講演だったと思う。

大切にしたい 地域における縦のつながりと横の広がり

フィールドワーク研修口を通して
1年女子生徒（米沢六中出身）
知っているようで知らないことがたくさんあった、私たちの住む置賜。今回の研修は、故郷である置賜を再発見する良い機会となりました。学校のすぐそばで扇状地の湧水を利用し、たくさんの淡水魚が飼育され調査・研究されていること、考古資料館には押出遺跡を中心に山形県を代表する貴重な出土品が数多く展示されていること、瓜割石石庭公園は旧高畠駅に利用されていることで知られる歴史ある高畠石の石切り場であったこと、これらすべてが新鮮な発見であり、感動の連続でした。また、最後に訪れた十分一山から見る大谷地とも言われた置賜盆地の絶景は、登山の疲れを癒してくれるのに十分な私たちへの最高の贈り物でした。自然溢れるこの置賜がますます好きになった一日でした。



南陽市十分一山から置賜盆地を一望



G・L講座

G・L講座を受けて
2年理科男子生徒（米沢三中出身）
私達は先日、G・L講座を受講した。G・L（グリーンイノベーション・ライノベーション）とは環境・生活技術革新のことだ。私はリニアに活用されている超伝導についてのコースを選択し、二つの実験を行った。超伝導体が超伝導になるためには温度を下げればよいが、その変化は急激なため、特殊な装置を用いて一定時間ごとに変化を記録した。その研究室の学生は毎日のようにこの実験をしているが、超伝導となる物質は非常にまれなのだそうだ。
この講座を通し、私は現代の科学は他分野との融合が大切だということ、実際の研究の様子などを知った。この経験を活かし、研究を有意義なものにしていきたい。



生涯学習フェスティバル（モバイルキッズケミラボブース）

南原文化祭を終えて
2年理科男子生徒（赤湯中出身）
私は今回の南原文化祭にワタアメ販売という形で参加しました。私は人生初のワタアメ作りに、初めのうちは戸惑い、失敗を繰り返しながら試行錯誤しながら、自分達の力で最善と思われるワタアメの作り方にたどり着くことができました。他の屋台に引けをとらない大きさや形のワタアメを作ることができると、私はとても大きな達成感を得て、普段料理をしない私ですが、家に帰ったら家族のために何か作ろうと思うのでした。そして何よりもワタアメを買ってくれた子ども達の笑顔が私にとって何かを作ることの喜びを教えてくださいました。



南原文化祭(KOJO ケミラボブース)

生涯学習フェスティバルに参加して
1年男子生徒（米沢五中出身）
10月11、12日に生涯学習フェスティバルが行われ、僕たちは参加してきました。僕は、入浴剤をつくるブースを担当しました。初めは入浴剤を作る作業も、小さな子どもたちと話すこともぎこちなかったのですが、次第に慣れ、楽しく活動することができました。
一緒に入浴剤を作っていく中で、子どもたちが笑顔になっていく様子を見ることができました。自分自身がとてもうれしい気持ちになり、さらに子どもたちに理科の楽しさ、おもしろさが伝わったと思います。
短い時間ではありましたが、とても充実した時間でした。来年も参加できると思うので、今からとても楽しみです。

